

1 基本方針

だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも
親しみ、楽しむことのできるスポーツ文化の推進

近年、高度情報化による生活の変化や高齢化が進展する中、運動・スポーツへの市民の関心が高まりを見せており、健康保持・増進を目的にスポーツに取り組む市民が増えています。一方で、地域やスポーツ関係団体におけるコミュニティの希薄化やスポーツイベントへの参加者の減少など、スポーツを取り巻く環境は日々変化しています。

また、令和2年当初には新型コロナウイルス感染症の拡大が本格化し、学校の休校や職場のテレワーク導入、各種大会の中止など、生活は一変し、スポーツ活動においても「新しい生活様式」として中長期にわたり感染症対策と向き合う中で、身体的及び精神的な健康を維持するため、体を動かすことやスポーツを行うことはますます重要となっています。

こうした中、本市では、日常的なスポーツ推進に加えて、平成30年にエコパアリーナで全国高等学校総合体育大会弓道競技を開催したほか、翌年には、エコパスタジアムがラグビーワールドカップ2019TM静岡県開催の会場となるなど、大規模なスポーツイベントを通じて地域に活気が生まれ、スポーツに期待される役割がさらに大きくなっています。

今後は、市民のあらゆるスポーツ活動の推進に向けて、スポーツを日常に欠かすことのできない「文化」と捉え、ライフステージや性別、障がいの有無などの多様性に応じて、誰もが、いつまでも、運動・スポーツ活動に親しむことができる環境の充実と更なるまちの活性化に向け、市とスポーツ関係団体、市民が連携して取り組んでいくことが重要であると考えます。

これらを踏まえ、本市のまちの将来像である、「活力と創造で未来を先取る日本一健康文化都市」の実現に向け、基本方針については、第3次袋井市スポーツ推進計画を踏襲し「だれもが、いつでも、どこでも、いつまでも親しみ、楽しむことができるスポーツ文化の推進」を掲げます。

2 基本目標

本市では、これまで「スポーツ」について、自ら身体を動かす「する」スポーツや観戦する「観る」スポーツ、スポーツボランティアやスポーツ関係団体などによる「支える（育てる）」スポーツとして、市民の生活に浸透させる取り組みを推進してきました。このような取り組みは、全ての市民が様々なかたちで運動・スポーツに親しむことにより、世代や競技レベル、競技種目、価値観を超えたスポーツ交流・イベントを通じて、多様な人々・団体との絆を深めるとともに、スポーツを通じて、教育、福祉、健康、産業、国際交流、まちづくり、環境分野などへの波及的な効果も期待され、地域づくりに大きく貢献していくと考えられます。

本計画においては、基本方針を実現していくための基本的な視点として、引き続き「する」スポーツ、「観る」スポーツ、「支える（育てる）」スポーツを大切にするとともに、それらの視点で取り組むスポーツ活動を、スポーツ以外の様々な分野にわたる「地域の活性化」に繋がるよう推進していきます。

そこで、本計画では、基本方針を実現していくための基本目標として、以下の5つの基本目標を設定し、市民のスポーツ活動を推進します。

基本理念を実現する5つの基本目標

- 基本目標 1 多様性に応じたスポーツ活動の推進
- 基本目標 2 誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の提供
- 基本目標 3 スポーツ活動を支える環境の充実
- 基本目標 4 アスリートの育成とトップスポーツに触れる機会の創出
- 基本目標 5 スポーツを通じた地域の活性化



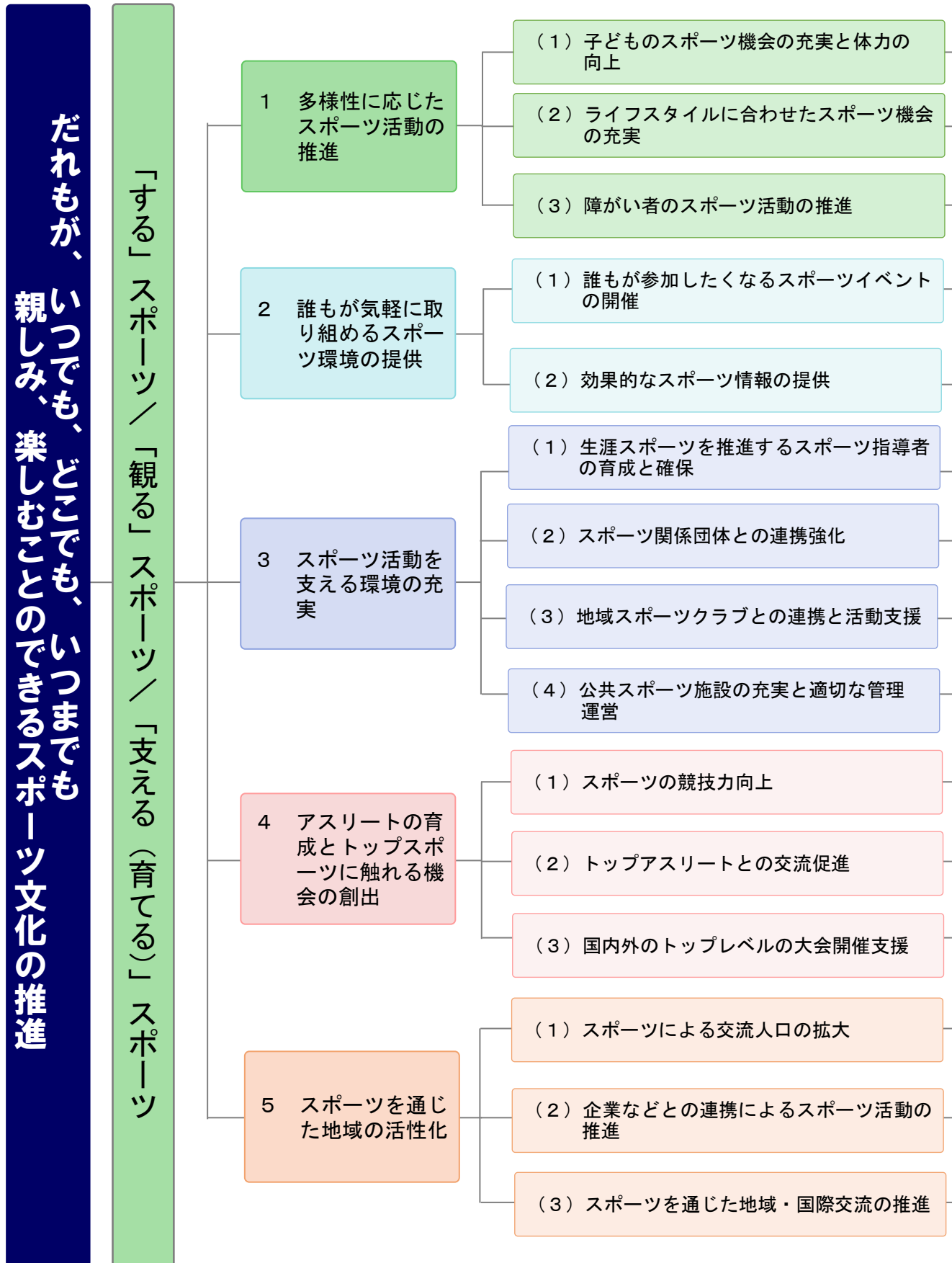
しずおか市町対抗駅伝

3 施策体系図

[基本方針] [基本的な視点]

[基本目標]

[基本施策 (15項目)]



- 重点
施策
- (1) 新しい生活様式を取り入れたスポーツ活動の推進
 - (2) ジュニアアスリートを支える地域スポーツの充実
 - (3) 公共スポーツ施設の適切かつ持続可能な維持管理
 - (4) スポーツを核とする交流人口の拡大

[取り組みの方向 (40 項目)]

| | 重点施策 | | | |
|--|------|--------|-------------|-------------|
| | (1) | (2) | (3) | (4) |
| ①幼児期からの運動あそびの推進 ②子どもを取り巻くスポーツ環境の確保・充実 | ○ | ○ | | |
| ①成人のスポーツ活動の充実 ②高齢者のスポーツ活動の充実とスポーツによる生きがいづくりの推進 | ○ | | | |
| ①障がい者のスポーツ活動の充実 ②誰もが楽しめる障がい者スポーツの普及啓発・情報発信 | ○ | | | |
| ①市民スポーツイベントの開催・充実 ②地区まちづくり協議会や自治会などのスポーツ活動の支援 ③職場のスポーツ・健康づくり活動の支援 ④指定管理者などによるスポーツ教室・講座の充実 | | | | |
| ①市民への効果的な情報発信と内容の充実 ②各種メディアを活用した市内外への情報発信 ③民間スポーツクラブ・スポーツ教室に関する情報発信 | ○ | | | |
| ①生涯スポーツにおけるリーダーや指導員の育成・確保 ②スポーツ推進委員の活動の充実 | | | | |
| ①市スポーツ協会などの活動支援・連携強化 ②スポーツボランティアの確保・育成 | ○ | | | |
| ①総合型地域スポーツクラブとの連携強化 ②地域のスポーツクラブの活動支援 | | ○ | | |
| ①公共スポーツ施設の機能向上 ②民間のノウハウを活かした施設の管理運営 ③スポーツ施設の有効活用 | ○ | | ○ ○ ○ | |
| ①ジュニアアスリートの育成・支援 ②優秀なスポーツ選手等の顕彰 ③競技スポーツ指導者の育成・確保 | | ○ ○ | | |
| ①トップアスリート育成のための支援 ②スポーツへの取り組み意欲を喚起する機会の創出 | | | | |
| ①大規模スポーツ大会やプロスポーツなどの観戦機会の提供 ②トップレベルのスポーツ大会の誘致 ③全国規模のスポーツイベントの開催支援 | | | | ○ ○ |
| ①市内スポーツ施設を活用したスポーツツーリズムの推進 ②全国大会やスポーツ合宿などの誘致・開催支援 ③スポーツイベントを活用したシティプロモーション ④ラグビーワールドカップ2019™のレガシー創出 | | | | ○ ○ ○ |
| ①企業と連携したイベントなどの開催 ②プロスポーツチームなどとの連携・協働 ③静岡理工科大学との協働事業の開催 | | | | |
| ①姉妹都市、友好都市などとのスポーツを通じた交流 ②アイルランドなどとのスポーツを通じた国際交流 ③外国人市民とのスポーツを通じた多文化共生の推進 | | | | |

4 成果指標一覧

1 多様性に応じたスポーツ活動の推進

| 成果指標 | 現状値 (令和元年) | 目標値 (令和7年) |
|-------------------------------|-----------------|---------------|
| 成人のスポーツ実施率（週1回以上） | 57.8% (令和2年) | 65.0% |
| 子育て世代（30～40歳代）のスポーツ実施率（週1回以上） | 50.9% (令和2年) | 58.0% |
| 新体力テストで全国の平均を上回る種目の割合（小5・中2） | 37.5% | 68.8% |
| 「運動が好き」と答える児童生徒の割合（小5・中2） | 86.7% | 92.0% |
| 障がい者スポーツ大会参加者数 | 53人 | 65人 |

2 誰もが気軽に取り組めるスポーツ環境の提供

| 成果指標 | 現状値 (令和元年) | 目標値 (令和7年) |
|-----------------------------------|---------------|---------------|
| 袋井クラウンメロンマラソンの参加者 | 6,941人 | 7,500人 |
| ウォーキングキャラバンの参加者 | 995人 | 1,100人 |
| 市内のスポーツ関連イベント等が新聞・テレビなどで取り上げられた回数 | 64回 | 70回 |

3 スポーツ活動を支える環境の充実

| 成果指標 | 現状値 (令和元年) | 目標値 (令和7年) |
|-----------------------------------|-----------------|---------------|
| スポーツボランティア登録数 | 27人 | 55人 |
| スポーツの大会やイベントにボランティアとして参加したことがある割合 | 21.9% (令和2年) | 32.0% |
| 市内運動施設の利用者数 | 551,962人 | 625,000人 |

4 アスリートの育成とトップスポーツに触れる機会の創出

| 成果指標 | 現状値 (令和元年) | 目標値 (令和7年) |
|--------------------|---------------|---------------|
| スポーツ指導者派遣回数 | 170件 | 190件 |
| 全国スポーツ大会の出場者数 | 59件 | 70件 |
| スポーツ指導者育成事業助成金交付件数 | 9件 | 27件 |

5 スポーツを通じた地域の活性化

| 成果指標 | 現状値 (令和元年) | 目標値 (令和7年) |
|---|-----------------|---------------|
| この1年で総合体育館「さわやかアリーナ」またはエコパで観戦した割合 | 27.1% (令和2年) | 40.0% |
| この1年で総合体育館「さわやかアリーナ」でプロスポーツの試合や全国規模の大会を開催した回数 | 1回 | 6回 |

5 重点施策

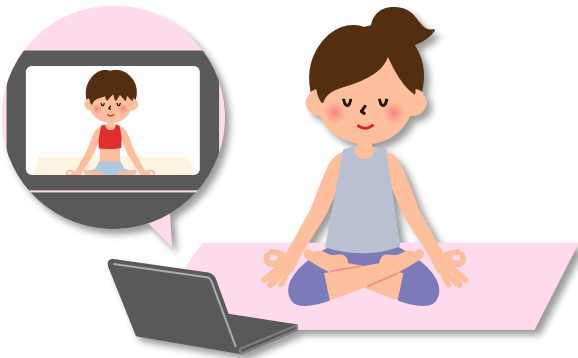
(1) 新しい生活様式を取り入れたスポーツ活動の推進

令和2年度には、新型コロナウイルス感染症の拡大により、家庭、学校、職場、地域における多くの活動が制限されるなど、生活様式が一変しました。スポーツ分野においても、大規模な大会やプロスポーツの中止・延期をはじめ、日常的なスポーツ活動にも大きな影響を及ぼしました。

この経験を踏まえ、新型コロナウイルス感染症の日常化や今後同様の社会情勢となった場合にもスポーツ活動が止まることのないよう「新しい生活様式」を取り入れた、個人やスポーツ団体の活動の在り方、実施方法（ICTの活用など）の確立が求められています。

あらゆる社会情勢の変化にも対応し得る「新しい生活様式」を取り入れたスポーツ活動の推進をめざし、次の重点施策を推進します。

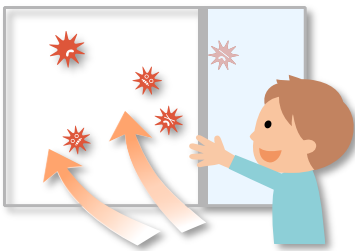
- ① 感染症流行時等の安心・安全なスポーツ活動の推進
- ② ICTの活用による新たな情報発信・スポーツ実施方法の確立
- ③ 団体（グループ）活動の継続支援と個人によるスポーツ活動の充実



スポーツイベントでの感染症対策の様子

【関連する取り組み】

- 1 (1) ②子どもを取り巻くスポーツ環境の確保・充実
- 1 (2) ①成人のスポーツ活動の充実
- 1 (2) ②高齢者のスポーツ活動の充実とスポーツによる生きがいづくりの推進
- 1 (3) ①障がい者のスポーツ活動の充実
- 2 (2) ①市民への効果的な情報発信と内容の充実
- 3 (2) ①市スポーツ協会などの活動支援・連携強化
- 3 (4) ③スポーツ施設の有効活用



(2) ジュニアアスリートを支える地域スポーツの充実

近年、子どもの運動離れや市内小中学生の運動能力低下が顕著であるとともに、市全体の競技力向上についても、ジュニア期における質の高い指導者による指導機会や練習環境の充実、各世代間における一貫性のある育成体制などが求められている中で、現状としては、指導者の高齢化や競技種目の減少、指導者間のネットワーク不足などが懸念されています。

また、中学校部活動の在り方が年々変化してきており、多様なニーズに応じた地域スポーツ（社会体育）での受け皿を確保・充実させる取り組みが求められています。

併せて、第4次袋井市スポーツ推進計画策定等に係る市民意識調査（令和2年6月実施）によると、約半数の方が本市の競技力を向上させる必要があると感じているなど、主にジュニア期における優秀な指導者の確保・育成が極めて重要であり、指導者資格取得などの助成の見直しや講習会の充実などの施策の展開も求められています。

このようなことから、アクティブ・チャイルド・プログラムを通じて、幼児期から運動あそびに触れる機会を充実させ、ジュニアアスリートの土台となる楽しみながら身体を動かす習慣を定着させるとともに、市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなど市内スポーツ団体における各世代や競技間の意見交換の場を充実させるなど指導者間の連携強化を推進し、ジュニアアスリートを地域で“育て”“応援する”体制の構築に向け、次の重点施策を推進します。

- ① アクティブ・チャイルド・プログラムを活用した運動あそびの推進
- ② 市内スポーツ団体と連携したジュニア世代の地域スポーツによる受け皿の充実
- ③ 質の高い競技スポーツ指導者の確保・育成による競技レベルの向上
- ④ 学校部活（学校体育）と地域スポーツ（社会体育）との連携
- ⑤ 競技別選抜強化システムの構築



部活動指導の様子

【関連する取り組み】

- 1 (1) ①幼児期からの運動あそびの推進
- 1 (1) ②子どもを取り巻くスポーツ環境の確保・充実
- 3 (3) ①総合型地域スポーツクラブとの連携強化
- 4 (1) ①ジュニアアスリートの育成・支援
- 4 (1) ③競技スポーツ指導者の育成・確保



(3) 公共スポーツ施設の適切かつ持続可能な維持管理

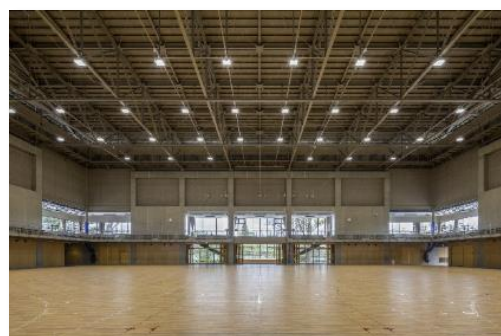
市民体育館の老朽化により、新たに市内初の民間資金や経営能力を活かした PFI 事業として総合体育館「さわやかアリーナ」を整備し、令和 2 年 4 月から供用を開始しました。市民はもとより、企業や市内在勤者の活用を促すとともに、PFI 事業での民間のノウハウを活かし、単にスポーツ施設としてだけではなく、市民の憩いの場として地域の賑わいの中心となっていくことが期待されています。

また、公共スポーツ施設の多くは、指定管理者制度を導入しています。今後は、引き続き、老朽化が進む施設・設備の適切な維持管理を行うことはもとより、指定管理者の創意工夫により市民ニーズを捉え、それぞれの施設機能や地域の特性に応じた自主事業の充実も求められています。

市民の健康志向の高まりに加え、スポーツに対する多様化するニーズに対応するとともに、いつでも・安心・安全にスポーツ活動を行うことのできる環境を継続的に提供するため、次の重点施策を推進します。

なお、公共スポーツ施設の今後の維持・管理においては、「袋井市スポーツ施設 3R プロジェクト（個別施設計画）」に基づく予防保全に努め、施設の長寿命化を図っていきます。

- ① 「袋井市スポーツ施設 3R プロジェクト（個別施設計画）」に基づく適切な公共スポーツ施設の維持・管理
- ② PFI 事業者及び指定管理者と連携した公共スポーツ施設の利活用促進



総合体育館「さわやかアリーナ」メインアリーナ

【関連する取り組み】

- 3 (4) ①公共スポーツ施設の機能向上
- 3 (4) ②民間のノウハウを活かした施設の管理運営
- 3 (4) ③スポーツ施設の有効活用

(4) スポーツを核とする交流人口の拡大

スポーツ庁では、「スポーツによる地域活性化」を目的としたスポーツと地域の観光資源が融合した旅を楽しむ「スポーツツーリズム」を推進しています。

本市においても、平成30年の全国高等学校総合体育大会弓道競技や令和元年のラグビーワールドカップ2019™では、国内外から多くの観戦客や競技者の往来があり、地域を挙げたおもてなしで観光や産業への影響も大きなものとなりました。

さらには、総合体育館「さわやかアリーナ」や袋井駅前の新産業会館「キラット」とそれに併設するホテルがオープンしたこともあり、本市や県が所有する施設の有効活用やスポーツと観光資源の更なる融合による交流人口の拡大が期待されています。

市民アンケート（令和2年6月実施「第4次袋井市スポーツ推進計画策定等に係る市民意識調査」）では、総合体育館「さわやかアリーナ」やエコパでのイベントについて、55.2%もの人がプロスポーツの試合や国際大会の開催を期待していることから、大会等の誘致や開催支援といった取り組みが求められています。

以上のことから、スポーツと観光・産業分野との連携や関係団体との協働により、国内外からより多くの方に本市を訪れていただき、本市の魅力を感じていただくため、次の重点施策を推進します。

- ① 市内観光資源・宿泊施設と連携したスポーツツーリズムの推進
- ② エコパやさわやかアリーナでの大規模大会誘致・支援
- ③ スポーツ合宿の誘致・支援
- ④ エコパのラグビー聖地化などに向けた関係団体との連携



RWC2019™会場で打上げられた
ふくろい遠州の花火

【関連する取り組み】 RWC2019™会場周辺の様子

- 4 (3) ②トップレベルのスポーツ大会の誘致
- 4 (3) ③全国規模のスポーツイベントの開催支援
- 5 (1) ①市内スポーツ施設を活用したスポーツ
ツーリズムの推進
- 5 (1) ②全国大会やスポーツ合宿などの
誘致・開催支援
- 5 (1) ④ラグビーワールドカップ2019™の
レガシー創出